

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0870102324
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館内原
所在地	茨城県水戸市杉崎町195-1 (電話) 029-257-5580

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年6月17日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	8 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 71.6 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田口同仁クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は幹線道路を挟み、大きなショッピングセンターがあり、また、目の前には田んぼが広がり1年を通じて季節感が感じられる場所に建てられたホームである。職員は明るく、利用者との日々の関わりから信頼関係を築き、両者ともコミュニケーションが十分かどうかを。事業所内での職員の交換研修などを実施し、介護の振り返りなど利用者のサービスの向上に努めている。家族会の発足や地域の子供会との交流を積極的に行い、交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族との連携が図れるよう、家族会を発足させた。家族会を通して、利用者の希望を家族や医師、利用者本人と相談しながら検討し、話し合える機会を設けることで改善への取り組みを職員全体で行ってきた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員からの意見を基に、自己評価の作成とし、取り組みを行っている。様々な気付きを職員はミーティングなどで管理者と共に話し合いを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の開催にて、各検討内容についてのアドバイスや意見をメンバーの方からいただいている。メンバーである看護師からの健康講座を開催するなど、今後活かせるよう取り組み、工夫を凝らしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を発足させ、意見や要望などを十分に吸い上げ、運営に反映できるよう考慮されている。半年に1回の家族に向けた定期的なアンケートの実施を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の専門学校のボランティア実習の受け入れや地域の行事への参加、また、子ども会との交流を深め連携が今後スムーズに図れるよう、取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念をもとに地域と共に歩いていく方針を重視する事を考えながら理念を伝えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し職員が常時目にし、意識できるように心がけている。ミーティングを活用し、理解と把握に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方との挨拶や会話、イベントなどを通し、子ども会やボランティアとの交流を進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関してはユニットごとに職員で考え、管理者がまとめている。自己評価を掲示し全体で周知できるようにされている。評価結果についてはミーティング時に問題解決や対処方法を検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営推進会議の規約のもと、2ヶ月に1回定期的に開催している。近隣の住民代表や役場、有識者などをメンバーとし、ホームの近況報告やメンバーから改善に向けたアドバイスなどを頂き取り組んでいる。		

茨城県 グループホームいっしん館内原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、行政に出向いている。生活保護者に関する状況報告や高齢福祉課でホームで使える各種福祉サービスの情報を提供して貰い、サービスの向上に努めている。内原支所にも利用者とは出向いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを月1回郵送し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、直接面会時に口頭で、あるいは電話で家族に連絡している。金銭管理については、請求時に明細を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置されている。面会時には家族から意見や要望を貰い、申し送り簿に記載することとしている。今後は半年に1回の頻度で家族に向けたアンケートを実施を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職、新人の入職に関して、利用者に影響のないように配慮するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回、講師を招き内部研修が行われており、外部研修についても様々な知識の習得を職員に勧めている。研修参加への取り組みは実施されているが、参加した後の報告がやや十分ではないと感じたため、判断した。	○	外部研修での報告はミーティングを通じて報告はされているが、職員間の知識共有の面でも議事録を作成するなど、今後のフィードバックについて取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に今後参加の予定になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用に至るまでには十分な面接や見学の機会を設けている。体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や昔の習わし、作法など教えていただいている、という姿勢で利用者から学んだりし、支えあう関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自の書式を活用しながら、気付きや日々の観察を記録に残し職員間で共有しながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、職員はアセスメントし、話し合いの機会を設けて意見交換しながら作成にあっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回、利用者に対しての話し合いの時間を設け、全体で話し合い、計画の見直しを行ってはいるが、介護計画と日常のケア場面の気付きと混合した見直しとなっているため、判断した。	○	介護計画に即した評価が今後、実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の希望や状況に応じて他種別の他事業所を紹介したり情報を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関のみならず、希望に応じた医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関してのホームの方針があり、それについての同意書を家族には説明、納得が得られている。利用者の身体状況に応じてその都度話し合いの場を設けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃のケアの場面において、利用者のプライバシーに配慮した関わりを心がけている。記録物の保管場所も決められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や意向を尊重した生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、献立作りには利用者の希望を反映し、会話をしながら食事を一緒に摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に定めておらず、利用者の希望に添って自由に入れる体制となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などの気付きを日誌に記載し、個々に出来ることを把握しながら、役割ごとや趣味の継続を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は、外でお弁当を食べたり、利用者に合わせて散歩や買い物などの外出支援を行っている。ホーム敷地内は一人で散歩することも可能としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はしておらず、自由に敷地内を行き来できる。夜間のみ、防犯上のため施錠を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練を実施している。地域の方々にも協力が得られるように働きかけを行っており、今後は地元消防団との連携に力を入れていく方針である。		防災マニュアルの作成中という事である。職員の意識の向上や安心した暮らしにも繋がるよう、迅速に準備されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養状態や水分摂取のチェックを行っており、栄養士による、マネジメントやアドバイスを貰いながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感や季節感を重視し、居心地の良い共用空間となるように職員は工夫をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みに家族と相談し、環境づくりに努めている。個々が使いやすく、居心地良く過ごせるように配慮されている。また、希望に応じての様子がえも行っている。		